

<県研究主題>

コミュニケーション能力の基礎を育成する学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 大崎 英樹 (川崎地区)

<研究主題>

「気づき」を引き起こし、言語習得を促進する英語授業の研究  
—共同学習の要素を取り入れて—

1 提案内容

英語授業において「気づき」を重視し、ペアワークやグループワークによる学習者同士のインタラクションを生かした言語活動を行うこと、また、それを効果的に進める手立てとして、「共同学習」の要素を取り入れることが、言語習得を促進する上で有効であると考えた。

(1) 具体的な手立て

①グループ編成

英語の授業用に男女2名計4名のグループで行う。学力差に一定の配慮をする。

②個人の責任

メンバーが欠けると解決できない課題を与えるように心がける。

③課題の難易度の設定

一人の力では到達が難しく、グループで行うからこそ解決できるレベルのものを設定する。

(2) 研究の方法

① ディクトグロス (Dictogloss)

メモを取りながらまとまった文章を聞き、そのメモを基にグループで話し合っ元々の文を再生する活動。実際の手順は次の通り。

ア まとまった文章を1回聞かせる。生徒は可能な限りメモを取る。

イ メモを元に個人で文を再構築する(1分間)。

ウ グループのメンバーに一斉にメモを見せる。

エ 互いのメモを見ながら、グループで文を再構築する(1分間)。

オ ア～エの流れをもう一度繰り返す。

カ 各自で元の文を見直し、自分たちが再構築した文と見比べる。

② 人物紹介 ペアでALTに校内の先生を紹介しよう

<第1時>

ア 教員のモデルを見せる。

イ 紹介する教員を決める。

ウ その教員について知っている情報をリストアップする。

<授業外の時間>

エ その教員にインタビューを行い、発表するための情報を収集する。

<第2時>

オ マッピングした情報をどの順番で表現するのか決める。

- カ 付けた番号の順に英文を書く。
- キ 別のペアからアドバイスをもらう
- <第3時>
- ク ペアごとに発表の練習をする。
- ケ 他のペアに向けて発表をする
- <第4時>
- コ ALT に向けて発表する。

### (3) 成果と課題

「気づき」を意識することで、「ちょっと隣の人と話してみよう」のように生徒に考えさせる機会が増えた。効果的に「気づき」を引き起こすためには、教員の発問やその適切なタイミングが必要であり、授業準備の段階でそうした点を考慮することが求められる。さらに、「気づき」によって生まれた学習者の「ギャップ」を埋めるためには、教員の役割が重要となる。

「共同学習」では日頃からの意識付けが大事で、単にペアやグループの活動に移すだけではなく、適切な課題設定をもつことが大事。また、思いついた時だけグループワークを行うということでは、「互恵的相互依存」の関係の育成はされにくい。

### 2 協議内容（質疑応答）

- ・Q: 共同学習中の言語は。
- A: 模索中ではあるが、今のところ日本語で行っている。
- ・Q: 内容理解が終わっている文をディクトグロスはどうなのか。そこに「気づき」はあるのか。
- A: 覚えている生徒もいるが、あいまいな部分を他の生徒とからの指摘で気づく場面がある。

### 3 助言

「3年間を見通した指導目標」の設定、また4技能を統合的に活用した言語活動の工夫

#### (1) 気づき

知らなかったこと、忘れていたことに「あ、そうか」と感じるものが気づきである。

ペアワークでつまづきが生じた場合は、教員主導で気づきを促すことも大切である。

#### (2) 気づきを促進するための手立てとしての共同学習の要素を取り入れる。

ペアワークやグループワークを円滑に進めるための前提となる「互恵的な協力関係」（思いやりを持って助けながらやっつけていこう）は、共同学習を取り入れた活動を継続していく中で徐々に培われていく。既習文だからこそ習熟度の低い生徒も参加できる。使用言語については生徒たちが英語を使う場面を増やしていく工夫が必要である。

## &lt;研究主題&gt;

言語活動の充実と言語材料の定着を図る指導の工夫  
～帯活動としての、フリートークを取り入れた活動～

## 1 提案内容

フリートークを帯活動として取り入れることで、自己表現力を高めることを目的とする。受け身の生徒が多いという実態を踏まえ、英会話中心の表現活動を通し自己肯定感を高め、自信につなげることを目指す。また、4技能をバランスよく向上させることをねらいとして取り組んでいる活動を紹介する。

## (1) 実践の概要

1年生の時にフリートークを1分間行う。またその発表と振り返りを行う。実施にあたっては **Challenge English** という例文集を用いて、英語－日本語のパターンプラクティスを練習する。2年生になると2分間のフリートークと具体的な質問をする。また、海外の学校の生徒と交流した。グループで質問を考え、実際に英語を話す機会を通し、生徒は課題を見つけ、また達成感を得ることができた。

## (2) 成果と課題

成果 ①生徒の英語力に対する自信がついた ②クラスの間関係作りに役立った  
③3単現や所有代名詞のフリートークによって身につけることができた。

課題 ①時間がかかる ②アイコンタクトや内容の工夫をして、自然な会話に近づける  
③段階を踏んだ目標の提示 ④評価 ⑤4技能をバランスよく伸ばす点について

## 2 協議内容

## (1) 参加者と提案者との質疑応答

①Q: 1年生の発表の時、1文に付け足すことや内容を深める工夫を行ったか。

A: 段階を踏んで増やしていくつもりである。帯活動の時間が10分という短い時間を考えて、とりあえず1文を言えればよいとした。

②Q: トピックを選ぶ基準はあるのか。

A: 参考文献や教科書で習った単語や文法事項を使うこと、生徒の興味を考えながら決める。

## (2) グループ協議

「どのように会話の内容を深める工夫をしているか」について

- ①質の良いものを全員で共有し、ふさわしい評価を与える。
- ②フリートークをみんなでシェアをして、真似できるようにする。
- ③同じテーマを繰り返し扱い、その都度フィードバックしていく。
- ④今回の国際交流を通して実際にネイティブの方と交流することでモチベーションを上げることができる。想定外の質問や状況が生じることで、対応力が身につく。
- ⑤一問一答になることや、準備をしていない事柄に対して単語のみの会話に陥りがちであるという課題に対して、ペアだけでなく、グループで質問をしてつなげていく練習を行う。
- ⑥ALT と生徒の会話を全体の前で行い、よい表現についてはメモをして生徒が使えるようにする。

### 3 指導・助言

- ・①基礎基本 ②関心意欲態度 ③活用する力 すべて言語活動の充実によって育まれる。
- ・一つのテーマについて、内容の質を高めるために①知的好奇心を刺激する ②友人や生徒と情報の授受があることが条件である。
- ・小学校英語は **Topic Base** であるのに対し、中学校は **Grammar Base** である。これらをつなぐために、言語機能に注目してテーマを決めるとよい。
- ・変容…生徒がその活動を通してどのように変わったかを見ていくことが大切である。
- ・評価については、4観点すべてを一度にやるのではなく、1つに絞って試みていく。
- ・3年生には3分間のフリートークという目標については、練習や例示を十分に示し、量についても明示することが必要である。

### 4 全体協議

#### (1) 協議内容

「3年間で身につけさせたい外国語の能力の育成と評価の在り方」について

- ・4技能をどのように伸ばすか。(どれか一つの技能でもよい)
- ・CAN-DO リストの作成について …など、各グループでテーマを絞って討議を行う。

#### (2) 全体協議(グループ協議とその発表)

- ・関心意欲の評価の難しさについて。
- ・目標を決めて取り組む必要性について。
- ・CAN-DO リストについて、各地区での取り組みについて情報交換を行う。
- ・3年間でどのような力をつけたいかについて、自分から思いを伝えられ、相手とのやり取りができる授業を目指す。
- ・中3が小6に教え、交流することでモデルとなる。
- ・コミュニケーションの基礎を培うことを中学生の到達目標として、4技能のバランスを図る。
- ・習得と活用を繰り返す。
- ・相手を意識したコミュニケーションを目指す。実感を込めて、聞いている人を想定してスピーチを行うなど。
- ・良いモデルを見せる大切さについて。
- ・英検のCAN-DO リストを参考にする。小・中・高の見通しを持って作成できるようにする。
- ・学校教育目標に沿ってつけたい力を考える。
- ・CAN-DO リストについての理解が一人ひとり異なっていることが分かった。

### 5 まとめ

- ・CAN-DO リストを作るにあたって ①学校教育目標に沿って作成する ②1年生から段階を追って作る。どちらでもよいが、CAN-DO リストを作ることを目的ではない。
- ・真のコミュニケーションとは、相手の知らない未知のことを伝える。相手がいるということで思考力・判断力を養う。
- ・単元で一つ、身につけさせたい力を考え、評価の観点を一つに絞りきる。
- ・目指す生徒とは①言葉を大切にする ②あいまいさを大切にする ③間違えることをおそれない ④卒業しても学び続ける。
- ・教師自身の英語力の向上を目指していく。
- ・評価についての参考資料や、書くことについての調査結果について HP を紹介する。